

第6回高校生ものづくりコンテスト山形県大会 電気工事部門

山形県立鶴岡工業高等学校
事務局 土 井 慎 一

1 はじめに

当部門は鶴岡工業高校を会場に6月19日（土）、20（日）の2日間に渡ってコンテストを実施した。

今大会には、昨年度と同様の8校13名の参加申込があった。東北大会も山形会場で代表数が2となり、多くの生徒に出場機会を与えるために全員の出場を認めた。また、本校が東北大会の事務局も担当するため、会場の準備から運営まで慎重に行った。



図1（開会式の様子）

2 競技

本大会では、基本的に全国大会の課題と採点方法を採用したが、電気工事の工具や材料等は高額であるため、金銭的な各校の負担を軽減することを考え、若干の本県独自ルールを取り入れて競技を進めることにした。

3 結果

順位	学校名 (学年 学科)	氏 名
1	鶴岡工業高校 (3年 電気電子システム科)	檜山 雄希
2	鶴岡工業高校 (3年 電気電子システム科)	本間 龍登
2	酒田工業高校 (3年 環境エネルギー科)	三浦伸之介



図2（競技の様子）

4 おわりに

今年度の競技を振り返り、全体的な技術力の高さについては、審査員からも高い評価を得ることができた。しかし、年々課題も高度になり、指導も難しくなっている。特に、今回の課題は容易ではなく、完成したのが6名で、半数以上の7名が未完成であった。採点対象は4名でいかに困難な課題であったかがわかる。接続箇所とリングスリーブの個数が合わず、追加支給でリングスリーブで接続するか通し配線をするか指導方法も分かれた。また、モーターブレーカ、切り替えスイッチなど高価な器具も加わり、前年と同じ予算の中で、事務局として準備することが困難で、参加者が持参して競技を行った。各校においても練習に要する材料費を考えると、その資金確保には苦慮しているようである。さらなる技術の向上のためには、十分に練習回数を重ねられるだけの潤沢な資金確保が必要である。

東北大会に出場した鶴岡工業高校の檜山雄希君と本間龍登君は残念ながら入賞することはできなかった。他県の選手は減点が一桁台で、作業内容を熟知した正確な作業であった。

最後に、今年度も山形県電気工事工業組合様からは高額な材料提供、山形県電気工事高等職業訓練校の先生方には審査と貴重なご助言をいただいた。大会の運営に対してご支援くださった多くの方々に深く感謝申し上げます。